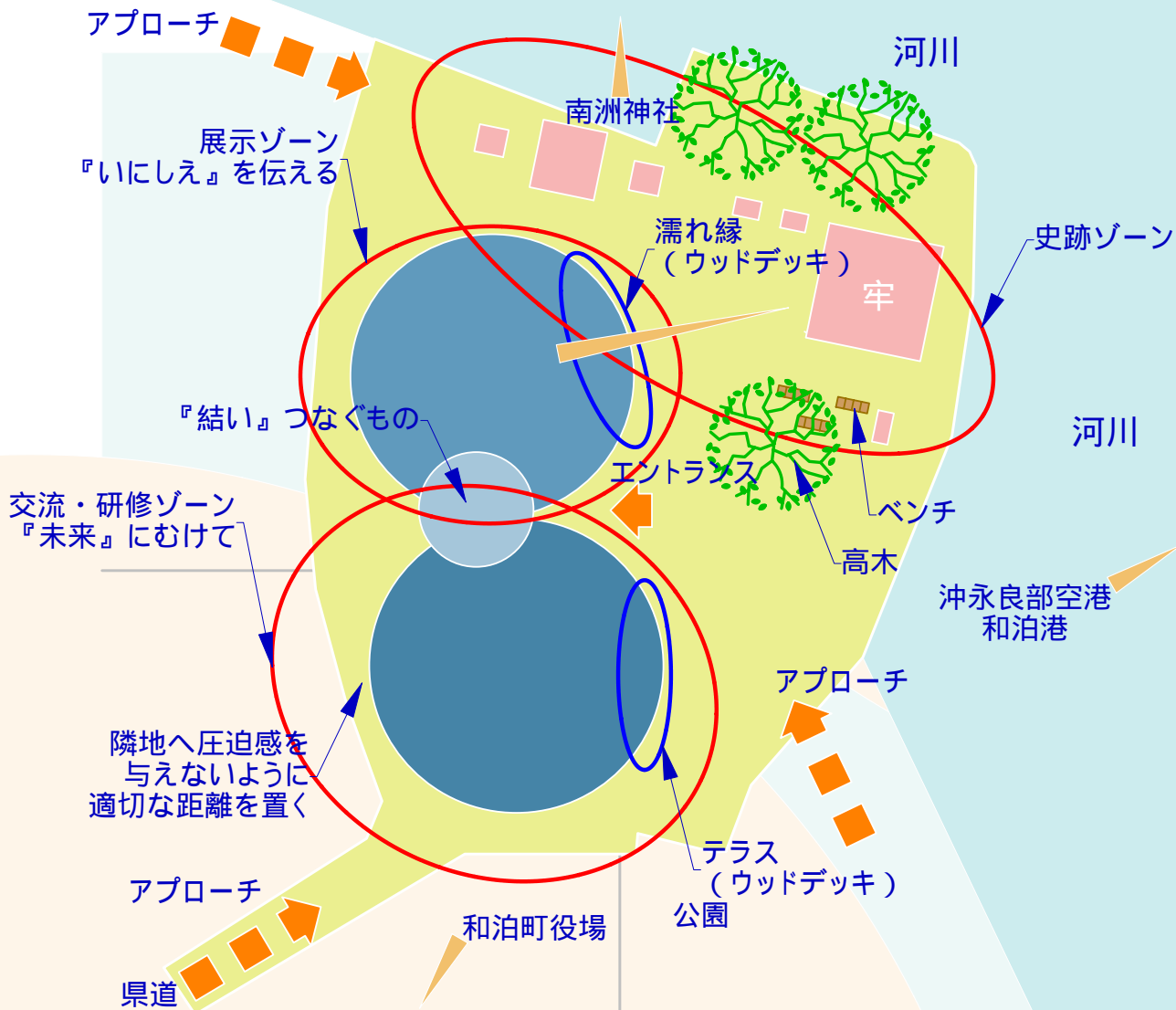


配置計画

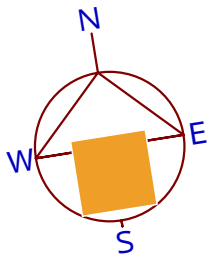
配置計画：

1. 東側の河に対して空間を取り、増水などの災害に備える。また、建物は史跡の方向へ視線が向くように建物の向きを計画する。
2. 周囲に圧迫感を与えないように2棟に分け、伝統的な建物のイメージとする。北側の史跡に近い方が歴史を学ぶ展示棟、南側が子供たちの教育や地域の交流に使用する交流・研修棟を配置する。



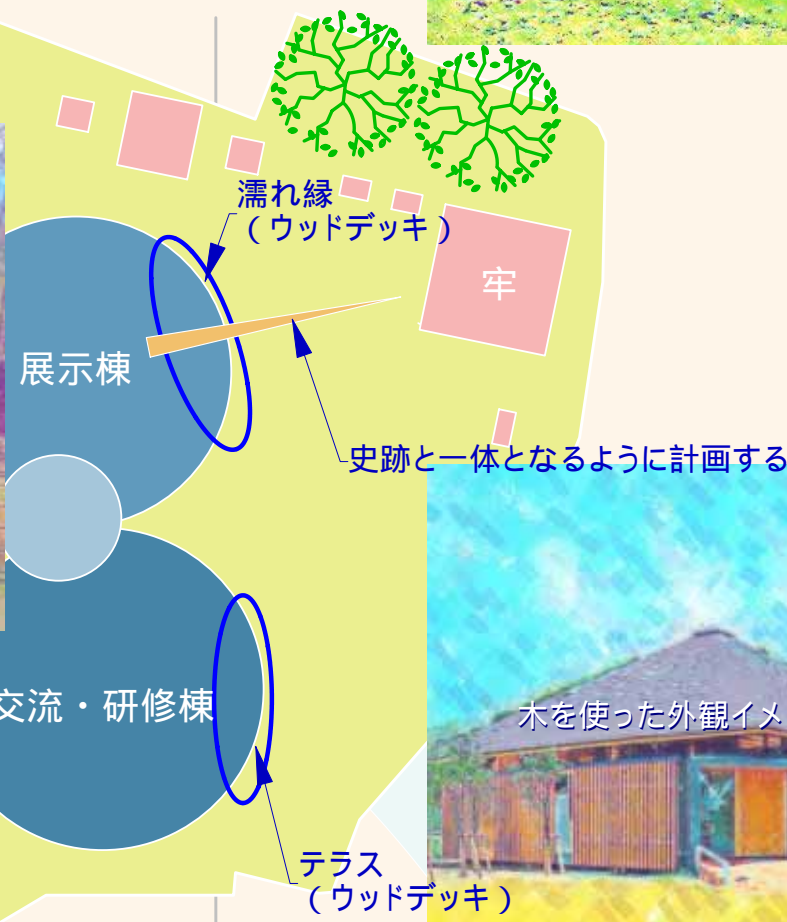
3. 復元された牢の前には樹木を植栽し、正面にベンチを計画する。牢の中で瞑想している西郷翁に向かい対話しているような雰囲気を持ってもらう。
4. 展示棟の東側には日本の伝統的な濡れ縁を計画する。また、交流・研修棟の東側にもテラス（ウッドデッキ）を計画し気軽に座れるように配置し来館者を迎え、親しまれる施設となるように配慮する。
5. アプローチは3箇所からとなるので、それぞれに案内板を設置し施設が分かりやすくなるように配慮する。また、隣接する公園と一体となる使用を考え、自由に行き来できるように計画する。

平面・立面計画



所要室：

1. 展示室
2. 交流・研修室
3. 管理室
4. 収蔵庫
5. 多目的便所



平面計画：

1. 展示室について

展示室内は来館者にとって魅力のある空間となるように、木の内装にし木の梁と柱で古民家のイメージとなるように計画する。また、外部の史跡との連携性を持たせるために東側に開口を計画し、濡れ縁を設計する。

2. 交流・研修室について

交流・研修等にはホールを計画し西郷翁に関する書籍をおく本棚を設置する。また、30名程度の研修が出来る広さを確保しスライディングウォールで2室に分割できるように計画する。環境を考え、ハイサイドライトを設置し自然換気を取れるように考える。

立面計画：

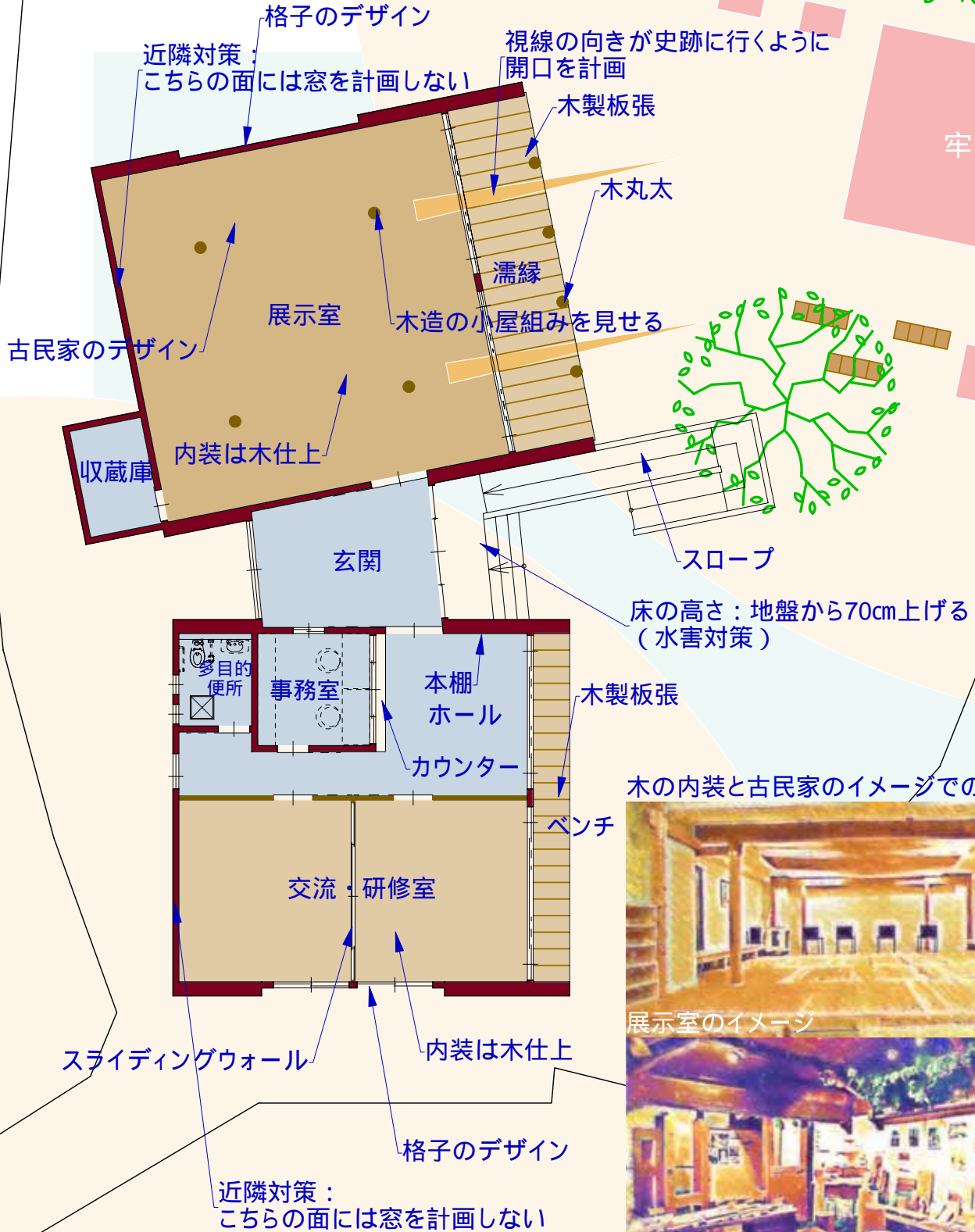
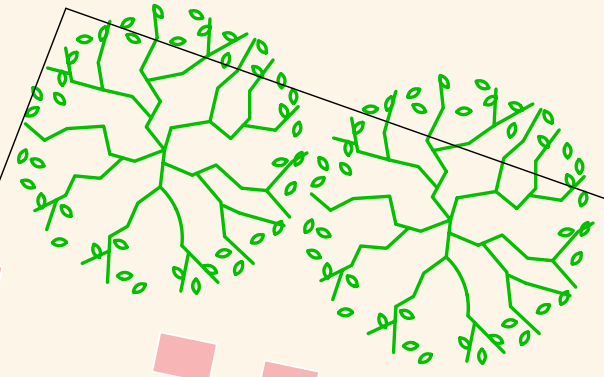
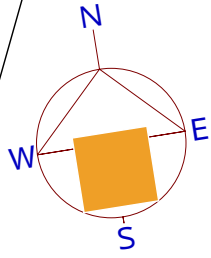
二つ家造りの外観とし、外壁は鉄筋コンクリートを下地に塗り壁と板張りで仕上をし古民家のイメージとなるように考える。エントランス部は、屋根を緑化し環境負荷の低減を図る。屋根は断熱工法とし、また、ハイサイドライトを計画し通風や換気、採光を取れるようにランニングコストの低減を考える。

配置図



平面図

延床面積：182㎡



木の内装と古民家のイメージでの空間づくり



展示室のイメージ



棚のイメージ

0 1m 3m 5m 7m 10m

外観イメージ

北側見えるイメージ



橋から見えるイメージ



金属屋根 (断熱工法)

交流・研修棟

展示棟

施設全体のイメージ

屋上の緑化

高木の植栽
(木陰)

テラス
(ウッドデッキ)

スロープ

濡れ縁
(ウッドデッキ)

高木の下ベンチ

県道から見えるイメージ



河の対岸から見えるイメージ

